

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300359		
法人名	医療法人メディカルフロンティア		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	〒031-0023 八戸市是川一丁目11番地1		
自己評価作成日	令和元年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和元年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>閑静な住宅街の中に位置しており、ホームの隣に公園がある恵まれた環境にある。ホームの窓から四季折々の植物を楽しむことができ、公園に散歩に行くと、ゲートボールをしている方や子供達、近隣住民に、挨拶を交わしながら、気分転換を図ることができる。また、施設周辺には保育園、幼稚園が点在しており、普段から行事の交流が活発で地域に根ざした施設運営に繋がっている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム理念『誠実に 謙虚に』を大切にしケアの実践に取り組み、地域交流が盛んであり、家族へ取り組みを伝える事で理解、協力が得られ、防災面でも連携が図られている。日々の生活は、利用者のペースを尊重し、その時々思いに寄り添えるよう、言動や行動を十分に理解し、豊かな生活となるよう、笑顔と柔らかな姿勢でケアが提供され、利用者と共に楽しみ有意義な時間を過ごされている。管理者は職員と日頃から何でも話せる信頼関係を築き、意見や要望を聞いて働きやすい環境づくりに尽力されている。また、重度化や終末期に向けた対応方針を利用者家族と確認し、重度化した場合には家族・医療機関等と話し合い、納得した最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念である「誠実に謙虚に」を普段の業務において、意識しながら管理者、職員は日々のサービスに繋げている。	利用者が安心して、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして「誠実に 謙虚に」の理念を掲げ、職員の行動指針は利用者のケアの基本であることを認識し、コミュニケーションを大切に申し送りや会議の際に振り返りながら日々実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会の参加や、また、季節の行事では近隣の保育園、幼稚園との交流を図り、散歩時にも声をかけ合う等して日常的に行っている。	自治会に加入しており回覧板等の活用をしながら、地域行事の夏祭りや敬老会へ参加している。保育園との交流があり、グループホーム自体が地域に浸透している。馴染みのある関係作りが構築されており、楽しみが共有されてる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、行事等に町内会の方も参加して頂き、認知症の人の支援について話し合ったり、行事に参加して頂くことで理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、利用者様、御家族様、町内の方、薬剤師、看護師さん等に参加、ご意見、ご助言頂き、その内容について職員は共有、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催されている。事前に資料を配布し、曜日や時間は参加者状況を考慮し工夫している。グループホーム内での活動の報告や取り組み等、具体的な内容について話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の方には、運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情や取り組みを伝え、また確認事項がある時は窓口に行くなどして連絡を取り合っている。	様々な機会を通じて関わりを持ち、情報共有できるよう取り組んでいる。市役所担当者は運営推進会議に出席している。その都度グループホームの実情を伝えたり、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が設置されており、定期的開催されている。玄関の施錠はしておらず、その他の拘束についてもしない方針にて取り組んでいる。	マニュアルの策定や内部研修を実施し、他の事例を参考に問題点を話し合うなど職員は利用者の抱えるリスクに対し、正しい知識を持ち、日々の関わりや個々の行動パターンを把握し、利用者との距離の取り方、声の掛け方を工夫し、散歩に付き添う等、精神面においても気遣いされており、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施、学習している。また、委員会も設置されており、その内容の議事録も、職員に回覧、周知して虐待防止のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおり、日々、学ぶ機会を持っている。内部研修はもとより、外部研修も参加しており、定期的に委員会も開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等には、必ず疑問点を尋ねて時間の許す限り、不安をなくすようにして説明、了承頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の生活の中でまた、御家族様からは面会時等に声がけをしている。1F玄関入口に御意見箱を設置している。	利用者からは日々のケアで意向を把握している。家族へは利用者毎にグループホームでの暮らしの様子を報告すると共に、面会時や電話等で意見を聞いて吸い上げ、出された意見は皆で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が意見や提案があったら、月に1回のケア会議で話し合い、検討し反映させている。また急ぐときは、随時話し合っている。	管理者と職員は日頃から気づきや感じている事は何でも話し合える環境にある。また、コミュニケーションを図りながら、連絡ノートや意見ボックスの活用をし、職員間で気軽に話し合いを行い、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施し、本人の希望、実績、努力等を把握、考慮しながら職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員一人ひとりの希望の研修を受ける機会を常に提供、奨励している等、職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や他の外部研修に参加して、同業者と交流する機会があり、ネットワークづくり、勉強会を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、本人様の不安や希望を十分に汲み取り、話して頂くよう配慮している。その不安が少しでも軽くなるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス前の施設見学の際にはじまり、事前に困りごと等を伺っている。コミュニケーションを構築できるよう、よりよい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様の希望、要望を開始する際、万遍なく聞いて、必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的にできる場所は、利用者様をお願いしたり、また一緒に行く等して共同の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には病院受診のための外出、また運営推進会議や行事の参加に協力して頂き、月に1回のほおずき便りで近況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の今までの縁が継続できるよう友人、知人の面会時には歓迎している。	家族や地域の協力を得ながら、馴染みの関係が途切れないよう、知人へ面会や電話での支援をし、外出等、利用者一人一人の関係継続のため言動を大切に、希望に添った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握、また個人の性格を見極め、日常的に利用者さん同士が関わり合えるよう声かけ、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係を大切にしながら、退所時には「何かあったらご相談下さい。」と必ず声掛けをし、その後の相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から本人様の言動をよく観察し、一人ひとりの思い、希望を把握するように努め、困難時にはご家族様に聞く等して本人本位に検討している。	日々の関わりを通して、言葉や表情、行動の真意を推測しケース記録に残し、職員間で情報を共有して検討し、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの一人ひとりの暮らしや環境について、ご本人様、ご家族、前のケアマネジャーさんから情報を収集し、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の過ごし方を尊重し、その日の利用者様の心身状態を把握、それに合わせた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や普段からの申し送り時に本人様、ご家族様また、訪問看護師と話し合い、課題があった際は変更して介護計画を作成している。	日常的に行われている意見交換や月1回のカンファレンスを通して課題や改善点の話し合いを行っている。利用者、家族の意向を踏まえて個々の状態変化に応じた計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日、個別記録に記入、身体記録票を作成しており、ケア忘れがないようにしている。また、その結果を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の事情や状況に合わせ、通院等の支援を柔軟に対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に保育園や町内会の行事に参加、交流している。また、ボランティア等の把握、参加を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医が往診に来て下さる。また、以前から通っていた、かかりつけ医の受診を本人様、ご家族様の希望を尊重し、通院を継続できるよう支援している。	かかりつけ医の受診ができている。協力病院の月1回の往診も含め、利用者の健康状態を把握し、主治医からの指示を受けるなど、適切な医療を受けられるよう対応が出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの情報等は訪問看護師への連絡ノートに記載し、週1回の来所時に確認してもらっている。緊急時は24時間通して連絡、相談、助言頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、職員が面会訪問し、本人様の状態を確認し、今後について話し合ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、早い段階から医師の意見を伺い、本人様、ご家族様と話し合い施設でできる事を十分に説明し、同意書も頂いている。	契約時、重度化や終末期について、本人、家族へ説明して希望を確認している。経過の途中で家族の意向が変わることもあり、その都度、話し合いの場を設けて意思確認をしている。常に医療機関との情報を共有し納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にはADEが常備されており、職員全員が普通救命講習に参加している。また、施設内での内部研修も行い実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間帯を想定した避難訓練を地域の住民に協力、参加して頂き年2回定期的に実施している。	マニュアルや連絡網を作成し、年2回避難訓練や誘導訓練に取り組み、職員全体が避難方法を身につけるよう努めている。災害発生時に備え、食料や日用品、寒さをしのげる物品の準備も整えられている。全国各地で想定外と言われる災害が起きており、管理者は実際に近い形での訓練について検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、また入浴、排泄時等は利用者様の尊厳に注意している。また、内部研修において、定期的にプライバシー保護について学習している。	利用者と接するうえで適切な声掛けをし、尊厳に努めている。また、介助時等は要望に応じ同性介助で対応しており、本人の症状や変動に合わせ適した接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう二択で質問したり、普段から思いを話して頂けるよう、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員の都合を優先するのではなく、利用者様の当日の体調や気分を汲み取り、個々のペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容を利用して頂いている。希望により回数も増やしている。また、外出時には本人に聞きながらおしゃれできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備時に食材の下ごしらえや、食後の食器拭き等を職員と一緒にコミュニケーションをとりながら行っている。	職員は利用者の状態に応じて、出来る事を危険のないように見守り、下準備や茶碗拭き等を共にを行い、利用者が自らの力を発揮できる様に支援されている。食事もやさしく声を掛け、急がず事なく安心して食べられる環境であり、和やかな雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の作成したメニューを提供している。一人ひとりの状態に合わせ、トロミやお粥等を提供し、食べる量、栄養バランス、水分確保に努め、情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に合わせ口腔ケア介助を行っている。毎日、就寝時、義歯を預かり、消毒、洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入、参照しながら一人ひとりの排泄パターンを把握している。少しでもトイレの排泄回数を増やすべく、個々の時間帯で対応している。	職員は排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らい、さりげない声掛けと誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できる様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその影響を職員は理解している。毎朝、牛乳や繊維質の多い飲食物の提供、また多めの水分摂取を促す取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決めているが一人ひとりの希望により、時間帯、曜日を変更したりして個々に応じた支援をしている。	基本的に週2回の入浴となっているが、入浴日や時間帯は固定せず、その日の利用者の状態を見て無理せずいつでも対応できるようになっている。一番風呂を好む方もおり、希望を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状況や希望にてホールのソファや居室で自由に休息して頂いている。また、安眠できるように、寝具の掛物の調整や温度管理に、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の薬の情報をまとめており、服薬される前に、必ず確認している。服薬支援または、見守りしており、また、症状変化時は記録後、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で散歩やミニドライブ等、外出して気分転換を図り、また誕生日会では本人様の希望で例えばカラオケをとり入れる等して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で町内会の催し物や、近隣の運動会の見学等外出支援している。家族と外出する方や、病院受診される方もいる。	天気の良い日には、心身の活性化につながるよう散歩やドライブ等に出掛けている。また、家族対応での外出もあり、気分転換ができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人ひとりの希望に沿って、お金を使えるようにしている。利用者様やご家族様の了承のもと、立替にて金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の意向により電話できるよう支援している。手紙、年賀状等郵送されてきた際は、必ずお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはその時の季節の花や装飾品を飾っている。また、照明、室温等、不快にならないよう配慮している。階段横の傾斜を利用者様にわかるようシールを床に貼っている。	全体的に光を多く取り入れ、季節を感じる事ができる。真ん中にはテーブルが置かれ、利用者はテーブルを囲みテレビを見たり、会話を楽しんでいる。室温に気を配り、居心地よく過ごしていただけるような空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルとソファがあり、そこでゆっくりと過ごされたり、玄関横のベンチに座り、職員と一緒に庭の花を鑑賞して過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族の写真や、家具など本人様の思い入れのある物を家族に相談しながら置いて、快適に過ごせるよう工夫している。	使い慣れた馴染みの物を傍らに置き、本人の力が活かせるよう、配置などを工夫し、居心地よく生活できるように本人、家族と共に考えられている。居室はきれいに整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が特定できるようトイレやお風呂場、本人様の居室等、名称を表示してできるだけ、自立支援をしている。		